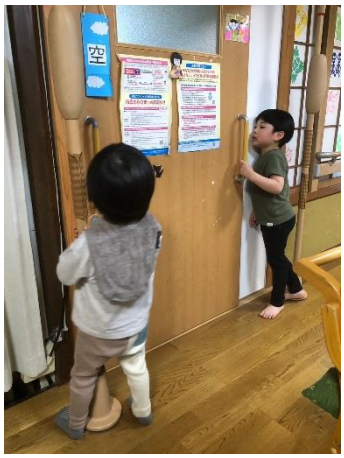
# まごころだより

2024 年 2 月

今年は大変な幕開けの年となりました。能登半島では今までも地震が頻発していましたが、どこか他人事のように思っていました。富山は災害の少ない県。立山があるから大丈夫と立山が活火山であることを忘れたような立山信奉がまかり通っていました。震源地は能登沖で、立山噴火ではありませんが、富山県も大きく揺れ、津波警報が発令され、正月気分を一転させるものとなりました。

テレビからは「今すぐ高台に逃げて下さい。東日本大震災の津波を思い出してください。命を守ることを最優先に考え行動してください。高台に逃げて下さい!」という叫び声が繰り返し流れていました。多くの人が「命を守る」ことを最優先に考え家を飛び出し、高台に向かい、道路は車で大渋滞でした。しかし、避難場所に指定されていた施設のいくつかは正月ゆえに鍵がかかっており利用できずというお粗末な課題も残されましたが・・。

幸い魚津は大きな被害もなく、まごころでは正月明けの 4 日から「怖かったね」「大変だったね」「娘が来てくれたよ」「東京から子供たちが帰省していて・・」と元気な声が聞かれ、ほっとしたものです。しかし、能登半島では 200 人を越える方が亡くなり、まだ安否の分からない方も 20 名近くいらっしゃいます。避難所生活を余儀なくされている方



が１万人近く、地震後１か月近くも経つのに水が確保されない地域もあるなど、喜んでばかりはいられないのが現状です。

「命を守る」ことができた私たち。でもそれはちょっとしたボタンの掛け違いでどうなるか分からない危ういものでした。残念ながら「明日の命」は誰も保証できないのです。だからこそ「守った命をどう生かすか」「守った命でどう生きるか」それが大切なのだと思うのです。そのためには私たちは何をすればいいのか、まごころで何が出来るのか。利用者一人ひとりの顔を思い出し考える毎日です。

お風呂に入ってさっぱりする、みんなと一緒に暖かい食事を摂る、安心してトイレに行ける。介護施設で行うこれらのことは気持ちよく生きていくための必須条件です。しかし私たちは最低限の必須条件に満足することなく、楽しみや役割・生きがいを持ち、最期の一日まで生きていて良かったと感じてもらいたいと思っています。『生きる』というのはそういうことだと思っています。そのためにはどうすればいいのか、何をすればいいのかを考え続けています。今年も考え悩みながら利用者の方々やご家族・関係者の皆様と一緒により良い介護を目指していこうと思います。今年もよろしくお願いします。

最後になりましたが被災地の一日も早い復興を願っています。